東村山市民新聞
第203号
2023年4月1日

「憩いの家」裁判、ついに結審

高齢者施設で消防法違反の防火管理
長年の行政のゆがみが露呈

2018年の予算委員会で、朝木議員の追及で発覚した市の高齢者施設「憩いの家」問題は、朝木議員や故矢野議員など市議5人で、市長や事業者の責任を問う裁判が提訴されてから、約4年経った1月24日に東京地裁で結審した。

この問題は、2018年度の予算委員会で、市内「憩いの家」の運営委託料が年々増額され、2012年に2431万円だった委託料が2018年度予算では4350万円にまで膨れ上がっていることを朝木議員が指摘し、行政側に理由を問いただしたところ、行政側は答弁ができなくなり、会議は紛糾。

結果、この2018年度分の予算は市長によって撤回されるという前代未聞の出来事となった。

業者見積額＝入札予定価格

「憩いの家」の運営を受託していたのは、大成㈱というビル管理会社。

市は毎年、大成㈱から、翌年度の運営委託料についての見積もりを「参考見積書」という形で提出させていた。ところが、「参考」であるはずの見積書の金額はそのまま一円違わず、「入札予定価格」に設定され、大成㈱がほぼ満額で落札する、ということが、6年間に渡って行われていたことが朝木議員の追及で明らかになった。

消防署の立ち入り検査で違法の指摘！

何よりも許せないのが、「憩いの家」は入浴施設もあり、身体の不自由な利用者も多い高齢者施設であるにも関わらず、消防法で定められた防火管理者が不在のため、防火計画もなく、避難訓練の実施、緊急時や個人情報保護のマニュアル作成、その他の複数の市との契約事項が不履行という、考えられない状態で6年間も運営されていたことが議会答弁で明らかに。

また、防火管理者の不在は、消防署の立ち入り検査で発覚し、渡部市長あてに是正勧告通知が出されていたが、渡部市長はこれを「知らなかった」と答弁。

そして渡部市長は、「憩いの家」が防火管理者不在という、消防法に違反する運営が続けられたことについて、2018年の決算委員会での朝木議員の追及に対し、「全体的には特に問題なく、利用者の生命・財産をきちんと守りつつ運営はされていたというふうに、私どもとしては理解をいたしております」という、高齢者の生命軽視ともとれる答弁をしている。

法で定められている「検査」を72回もスルー

これらの「契約違反」がなぜ6年間も発覚しなかったのか。

市が事業者に運営委託をした場合、毎月、市による「検査」が行われ、この「検査」で、「契約書の内容が確実に履行されているか」を市職員がチェックし、履行が確認された日付で「検査調書」が作成され、この検査調書が委託料の支払いに必要な書類となる。

ところが、市は「検査は行ったが、契約書の内容を知らずに検査を行ってしまった」という全く意味不明の言い訳をし、6年間で72回もの「検査」が行われながら、これらの契約違反は全て見逃されており、しかも情報公開制度で取り寄せた、これら「検査調書」の日付は、日曜日だったり、なんと1月1日の日付のものまであるという、無茶苦茶な文書だった。

返金要求はたったの56万円

この行政と大成㈱の異常な関係は6年間続き、市が6年間で支払った運営委託料は総額で1億9937万円。朝木議員らは、この事業者から委託料の返金を市長に求めたが、市が重い腰を上げてやっと返金要求を決めた額はたったの「56万3112円」。（法定利息がつき、約69万円）という、納税者市民を馬鹿にしたような金額だった。

多くの契約違反が発覚しても、市はこの受託業者大成㈱の責任を厳しく追及することはなかった。

公明党議員が辞職後に就職

この大成㈱の東村山営業所の窓には、当時、常に公明党のポスターが貼られ、退職した公明党の市議会議員が複数、この会社に就職している。「憩いの家」の事実上の責任者はこの退職した元公明党市議であることを朝木議員は2012年の一般質問で指摘し問題視していた。

市の監査請求は棄却

これら事実をふまえ、市が支払った約2億円あまりの委託料の返還を求める監査請求を行ったが、棄却。市の3名の監査委員は市長の指名により選任されており、そのうちの一人は必ず与党議員が選任される。当時の監査委員は自民党の熊木議員だ。

よって、朝木直子議員と、故矢野穂積、山口みよ、渡辺みのる、佐藤直子ら各議員で2019年2月に東京地裁に提訴した裁判は5月12日に判決が言い渡される。

タウンニュース

「宗教と政治を考えるシンポジウム」市民センターで開催

3月25日に、統一教会問題を追及している鈴木エイト氏と創価学会問題に詳しい乙骨正生氏を招き、「宗教と政治を考えるシンポジウム」が東村山市民センターで開催された。

第一部では鈴木エイト氏により、自民党と統一教会との関係の歴史、また未だこの関係は清算されておらず、むしろ隠蔽化が図られている現状などが講演され、第二部では乙骨正生氏と朝木直子議員により、東村山市における、創価学会＝公明党の諸課題について対談が行われた。

今度の地方統一選では東村山市でも統一教会との関係を持ちながら素知らぬ顔をして立候補予定の自民党議員がいる。市民でしっかりと監視する必要がある。

子安じゅん VOICE

政務活動費、視察旅行などの議員特権は即刻廃止を！

Twitterでも情報発信中！

東村山市長は「子育てするなら東村山」というキャッチフレーズを看板にしていますが、大事な子育て施策については、東村山は都内でもかなり遅れています。

東村山市は乳幼児の医療費無償化の所得制限を撤廃したのは、都内で一番最後、また現在義務教育の就学児童の医療費は所得制限付きで無償となっていますが、26市中15市は所得制限を撤廃し、子どもの医療費は全員無償です。

また、市内には出産できる病院がなく、市外で出産するしかない状況です。

そして中学生の給食についても、東村山市はセンター給食とお弁当の選択制ですが、中学校の全員給食となっていないのは26市中3市のみ。

このように、「子育てするなら東村山」の看板に実態が全然ともなっていません。渡部市長は子育て施策の遅れについて、予算がないことを理由にしていますが、必要な財源は優先して確保するのが本来の予算編成です。

議会を傍聴していても、渡部市長の与党である自民公明の議員は、渡部政策を褒めたたえるばかりで何も批判しません。真の二元代表制を実現し、議会がしっかりと行政監視機能を果たせる東村山市議会の実現が市民にとって急務です。

担当地域
野口町・多摩湖町・廻田町・美住町
富士見町・栄町・萩山町・本町

行政監視型市民派 子安じゅんのプロフィール

▼1983年大阪府生まれ。豊能郡能勢町立歌垣小・能勢町立能勢東中・府立池田高・創形美術学校卒／会社勤務／新聞編集／高齢者団体役員／2022年1月より東村山市民新聞編集スタッフ／地元FM局で番組作り／「脱原発」／政治と宗教問題への関心から矢野穂積議員の遺志を継ぐことを決意。

子安じゅん HP

私は議員報酬のお手盛り値上げに反対し、任期中のお手盛り値上げ分および市職員より多いボーナス減額提案分は受け取り拒否しています。

期末手当返上額
5,967,410円

政務活動費、視察旅行などの議員特権は即刻廃止を！

Twitterでも情報発信中！

朝木直子 VOICE

この3月議会の私の一般質問に対する答弁で、渡部市長がとりまきの元公明党議員の任意団体を特恵的に優遇している公共施設の自動販売機設置問題について、2024年度からは全て公募で設置され、場所の使用料も公平に徴収することがわかりました。

元公明党議員の任意団体は自動販売機計8台（運動公園5台、中央・秋津・萩山公民館各1台）を「市長の特別の計らい」により無償で設置していましたが、この自動販売機利権はやっと廃止される見通しとなりました。

自民党政策により、貧富の格差は今後ますます大きくなり、物価・高熱費の暴騰で、私たちの生活はより厳しいものとなります。国の事業では、「中抜き業者」が税金にたかり、私たち市民が考えられないような巨額の公金が、与党議員のとりまき業者に流れていますが、これは決して国だけの問題ではないのです。

地方自治体では、私たち納税者市民が、しっかりと行政を監視し、歯の浮くような建前の言葉に騙されることなく、真実を見抜いていかなければなりません。

担当地域
諏訪町・久米川町・秋津町
青葉町・恩多町

行政監視型市民派 朝木直子のプロフィール

▼母・明代議員の殺害事件後、遺志を継ぎ、謀殺事件究明、庶民・弱者の生活を守り、税の使途、行政腐敗を監視するために斗うことを決意。憲法学習会・廣渡塾一期生／市民新聞編集長／現職市議会議員。

▼1967年東村山市諏訪町生まれ／化成小・2中・都立武蔵高・慶応大卒／会社勤務／高齢者団体役員／社会福祉法人理事／「政治と宗教を考える会」／「脱原発」／地元FM局で番組づくり／憩いの家委託問題を追及し、市長に予算を撤回させる／朝木明代議員殺害事件究明に28年。

朝木直子 HP

★ 朝木明代議員殺害事件の真相究明活動を続けています。犯人逮捕への情報提供をお願いします。